

江川小だより

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

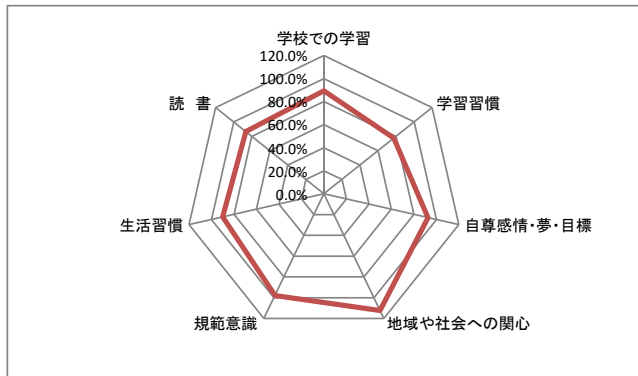
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	・国語への関心が低い傾向にあり、書く力に課題が見られた。 ・言語についての問題は全国平均を上回ることができた。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことについて、一定の定着が見られた。	下回っている
算数	・基礎・基本的な整数や小数の計算についての問題は正答率が高く、全国平均を上回った。 ・数量や図形についての知識・理解に関する問題に課題がある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・学習習慣においては、家庭での学習時間が少なく、全国平均を下回っていた。自分で課題を設定し、取り組む自主学習ノートの活用や通信などで保護者への啓発を行っていく。
・地域や社会への関心が全国平均をかなり上回っていた。地域の祭りやPTA主催の行事、ゲストティーチャーとして地域の方を招くなど保護者や地域との連携を図り、体験を重ねることで、成果が出てきた。
・委員会活動やクラブ活動等、一人一人が責任をもった活動に取り組むことやキャリア教育において、職業や将来の夢を考える学習を行うことで、上級生としての自覚をもち、将来への夢や希望をしっかりと持っている児童が多かった。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○算数科を中心として【わかる授業づくり5つのポイント(1.「学び合いの基盤」2.板書には「めあて」、「まとめ」と「振り返り」3.子どもの思考を深める「発問」の工夫 4.1時間の中に「話し合う活動」と「書く活動」5.「まとめ」と「振り返り」)】を意識した授業づくりを継続していく。

○「学び合い活動」を充実させるために、学校で統一したグループ編成の工夫や思考ツールの活用など、全職員で共通理解を図る。

○国語の漢字学習や算数の練習問題等、朝の学習に補充学習の内容を充実させていくことで、児童の基礎的な学力の定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○学年×10分間の家庭学習について、全職員で家庭学習の内容・量等について共通理解を図る。

○中学校区で決めた「家庭学習のすすめ」を配付するとともに、学校だよりや通信等で家庭学習の必要性を啓発していき、子ども達が自主的に家庭学習に取り組めるように家庭への支援を呼びかける。

○小中が連携した取組を進めるために、学力向上についての小中合同研修会の機会を増やし、中学校区で共通理解を図る。